

「重度障害者の自立生活と介助保障について」

自立の風 かんばす

横川 由紀

自己紹介

- ・ 32歳
- ・ シャルコ・マリー・トース病
- ・ 20歳から東京で自立生活
- ・ 26歳に札幌へ移住
- ・ 29歳に函館に定住
- ・ 現在函館市にて自立生活
- ・ 「自立の風 かんばす」2005.7

生い立ち

- ・ 生まれた時から障害者
- ・ 6歳までは実家
- ・ 7歳までは子ども医療センター
- ・ 7歳からは精陽学園
- ・ 18歳から神奈川リハビリテーションセンター七沢更生ホーム
- ・ 親と切り離されての生活 家族にとっての障害
- ・ 管理と安心と安全 自分の意思は持たずに

自立生活

- ・ 20歳から自立生活
- ・ 精陽時代からの友人との再会
- ・ 施設から飛び出して地域の一員、社会の一員として
- ・ 自己決定の確立 人生の選択権は本人にある

施設への思い

- ・ 「いい」施設「悪い」施設 誰にとって？
- ・ 大型収容施設とグループホーム
- ・ 自分が入る事を想像できるか

公的制度

- ・ 数十年前の障害者は地域に出る事自体を否定されながらも実現してきた
- ・ ボランティアしかいない状況から徐々に公的介助保障の重要性を認めさせてきた
- ・ 10年前の私は、少し介助保障されていた
- ・ 苦労はあったが30年前程ではないと思う
- ・ 過不足なくあれば誰でも地域の中で生きられる
- ・ 福祉は施しではない

現状

- ・ 函館では必要な分の介助保障を受けられない
- ・ ボランティア探しの日々
- ・ 「ボランティア」というふれあい方
- ・ 施設から出てこられる人・出てこられない人…違いは一体何？

今後

- ・ 誰もが地域で当たり前生きていける社会作り
- ・ これからのかんばすの活動